

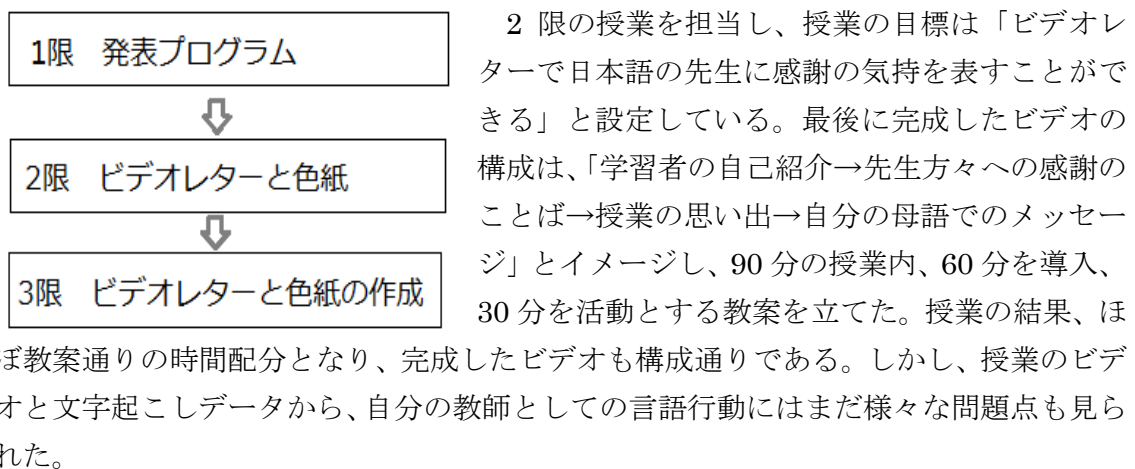
教育実習の振り返り

現代日本語学講座 M2 梁辰（りょうしん）

1. 授業の概要

本年度の教育実習において中心となって担当した授業は、2月17日「手続き」の1コマ目、2月22日「依頼・感謝」の1コマ目及び2月29日「ビデオレター・色紙」の1コマ目である。中でも、2月29日は実習生自主運営の授業であり、教師行動に問題や反省点が多々に見られているため、本報告の対象とする。

2月29日の3コマの授業の流れは、以下の図に表示している。



2. 教師としての言語行動と反省点

2.1 指示

指示とは、「学習者に学習行動を指示したりして、授業内の学習者を動かすことである」（印道 2007：29）。授業のビデオを観察してみると、指示は、主に「活動の開始時と終了時」、「教材やハンドアウトの閲覧時」及び「学習項目に対する説明時」に多用している。指示のことばとして「～てください」「～をお願いします」が多く使われている。ほぼ学習者に理解されているが、大きな問題点もある。それは、指示と説明が混じっている上、指示のことばが長たらしいことである。それで、学習者にいつ行動したらよいか分らなくなり、戸惑いをもたらしていたことがある。今後、授業で何かの行動を求めて指示する時、文をより短く切ることに注意し、説明の部分とはっきり分けることを意識していく。

2.2 質問

授業の中、さまざまな場面で学習者に質問を発する。「教師が答えを知っていて学習者の理解を試す目的で行う提示質問と、教師も答えを知らず答えを探す目的で行われる指示質問」(岡崎 2000 : 15)が含まれている。

授業のビデオと文字起こしデータを見てみると、自分の言語行動の内、質問の数が圧倒的に多く、提示質問と指示質問の数はほぼ変わらなかった。クラス全員に当てる質問はあるが、個人個人の学習者を指名し、答えを求める質問も多くある。結果的に、ほぼ学習者に理解されているが、質問の仕方にまだ大きな問題点が見た。まず、質問と説明の混在である。質問の途中で説明が入ったり、説明の途中で質問したりするのが多く見られている。それで、学習者がいつ質問を答えたらよいか分からなくなり、教師の質問に答えなくてもよいかと感じさせる恐れもある。それから、質問してもあまり意味がなく、答えがよくわからない質問も見られている。それで学習者が混乱して結局答えられなくなる場合がある。今後授業の改善ため、説明と質問をはっきり分けることや、質問する前にまず自分が答えられるかどうかを考えてみることを課題とする。

2.3 フィードバック

フィードバックは、「学習者の考えや感情を受け入れたり、それに対して賞賛、励まし、批判などを加えたりすることである。誤りの訂正などもこの項目に入る」(印道 2007 : 29)という。

今回の実習において、自分が最も大きな課題として感じたのはフィードバックの量と種類の少なさである。自分の日本語力の不足が原因でもあるが、最も影響が大きい原因は経験の不足である。フィードバックにはどのような種類があるか、どうすれば、場面にあったフィードバックができるか、など様々な課題が残され、経験の積み上げるとともに、次第に改善していきたい。

参考文献

- ・印道緑(2007)「日本語教育実習における「教師行動リスト」の活用：意思決定能力の養成をめざして」北九州市立大学国際論集 (5), 23-39,
- ・岡崎眸(2000)「教室研究は教師に何が提供できるか」
http://www.jppe.go.jp/j/japanese/survey/tsushin/dw_pdfs/tushin38_p14-15.pdf(2012/08/03)